



Microsoft 365連携

～ スケジュール同期連携 ～

セットアップガイド

※ 本書は、「desknet's NEO V7.0 R2.0」以上をご利用の方向けのドキュメントとなります。



Index

01 はじめに 3

- 1. 概要 3
- 2. 前提条件 3
- 3. 本書の対象者 3
- 4. 注意事項 4
- 5. 登録商標 4

02 管理者による事前準備 5

- 1. Microsoft 365連携 設定の流れ 5
- 2. 設定用のオプションメニューの作成 6
- 3. 初期設定を行う 7
- 4. スケジュールの同期設定を行う 21
- 5. ユーザー毎のスケジュールの同期設定を行う 23
- 6. ユーザー向け設定用のオプションメニューの作成 25
- 7. 設備の連携設定を行う 26
- 8. Microsoft 365関連のメニューを追加する（任意） 28



01

はじめに

1. 概要

Microsoft 365連携とは、Microsoft 365のアカウントとdesknet's NEOのアカウントを紐づけることで、Microsoft 365のOutlook「予定表」とdesknet's NEO「スケジュール」を同期する連携機能です。

その他、desknet's NEO ログイン画面に表示される「Microsoft 365でログイン」ボタンからログインいただく事により、ポータルメニューに配置（任意）した各Microsoft 365アプリケーションにシングルサインオン(OAuth認証)いただく事も可能となります。

本書では、連携時の前提条件や注意事項と、グループウェアの管理者による設定の手順について説明します。

2. 前提条件

Microsoft 365連携をご利用いただくには、下記の前提条件がございます。

- Microsoft 365連携を行うには、「Azure AD」と「Exchange Online」の両方が使用可能である必要があります。

ご契約中のプランが上記条件に該当していることを、ご確認ください。

【Microsoft社 Webサイト】

< <https://learn.microsoft.com/ja-jp/office365/servicedescriptions/office-365-platform-service-description/office-365-plan-options> >

※「Microsoft 365 および Microsoft 365の各プランのサービスの可用性」の項で、Microsoft 365プラットフォームとExchange Online が利用可能なプランであることが、利用可能な条件となります。

- パッケージ版をご利用の場合、desknet's NEOのバージョンが「V7.0 R2.0」以上であること。
- パッケージ版をご利用の場合、desknet's NEOのサーバーがSSL（https://～ で始まるURL）に対応していること。
- パッケージ版をご利用の場合、desknet's NEOのサーバーから以下のURLに対しアクセスが可能であること。
https://graph.microsoft.com/～
https://login.microsoftonline.com/～
- Microsoft 365ならびAzureについて理解していること。

3. 本書の対象者

以下の利用者を対象としています。

- desknet's NEOシステム管理者アカウント
- Microsoft 365グローバル管理者アカウント



4. 注意事項

必ず下記注意事項を確認し、ご了承頂いた上で ご利用頂きます様、お願い申し上げます。

【本書の記載に関する注意事項】

- 本書内で記載されている外部URLは、**2023年6月1日 現在**のものであります。また、本書内のMicrosoft 365、Azure に関する画面および説明は**2023年6月1日現在**のものであります。
- Azureの画面構成や前提条件のプランに関する内容は、お客様のご利用状況やMicrosoft 社の仕様変更等により実際の画面やサービスと同一でない場合がございます。
- Azure設定に関して、本連携機能に関する部分以外（本書掲載内容の範囲外）のお問い合わせは、お答えできない場合がございます。

【ディスク容量に関する注意事項】

- スケジュールに添付されたファイルの同期をする設定にした場合、それらのファイルもdesknet's NEOのサーバー内に保存（同期）されます。
その為、**クラウド版desknet's NEOをご利用の場合は、ディスク使用容量を消費するため、契約容量超過にご注意ください。**

【機能に関する注意事項】

- 本書のスケジュール同期は Web版 Outlook の使用を前提としております。
そのため、同期したスケジュールは Outlookクライアントアプリ では「予定」ではなく「会議」として登録されますが、こちらは仕様となります。
- desknet's NEOと連携している Microsoft 365のアカウントがロックされた場合、そのアカウントを使用してのシングルサインオンは出来なくなります。その際でも、desknet's NEOのアカウントを使用して、desknet's NEOへのログインは可能です。
- その他、下記「**制限事項（Microsoft 365連携）**」をご一読ください。
< https://www.desknets.com/neo/requirement/limit_o365sync.html >

5. 登録商標

本書に掲載されている商品またはサービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。

- Azureは、米国Microsoft Corporationの米国および、その他の国における登録商標または商標です。
- Windows、Microsoft、Outlook、Word、Excel、PowerPoint、Office 365、Edge、および各製品のロゴは、Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。
- その他会社名、各製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。



02

管理者による事前準備

- 本項の操作は、desknet's NEOシステム管理者および、Microsoft 365グローバル管理者アカウントの権限が必要です。
- ✓ 既にMicrosoft 365を利用開始している状態を想定しています。
Microsoft 365の利用開始方法、設定につきましては、Microsoft社のドキュメントをご確認ください。

1. Microsoft 365連携 設定前の確認事項

Microsoft 365連携の設定を行う前に、desknet's NEOシステム管理者の下記操作画面が設定されているか**確認**してください。

A) 【パッケージ版／クラウド版をご利用の場合】

「管理者設定 > システム管理 > URLと基本認証の設定」の項目「アクセスURL(内部)」、「本体」が入力されているか。

オンラインヘルプ掲載箇所（URLと基本認証を設定する）

- https://www.desknets.com/neo/help/ja_JP/admin/set/004.html#set75

B) 【パッケージ版をご利用の場合】

プロキシサーバーを利用されている場合、「管理者設定 > システム管理 > プロキシサーバー設定」の設定を行ってください。

オンラインヘルプ掲載箇所（プロキシサーバーの設定を行う）

- https://www.desknets.com/neo/help/ja_JP/admin/set/004.html#set49

注意事項

• クラウド版をご利用の場合

クラウドでは、desknet's NEOのプロキシサーバー設定を利用できません。

何らかの設定を入力されている場合は、Outlook「予定表」との同期が正常に行えません。

2. 設定用のオプションメニューの作成

管理者向けの「Microsoft 365」の設定を行う画面を表示するための、オプションメニューを作成します。

- ① ご利用中のdesknet's NEOにシステム管理者ユーザーでログインしてください。
- ② 管理者設定 > メニュー設定 > オプションメニュー設定へ移動し、**【オプションメニューの追加】ボタン**を押してください。



- ③ 下記の必要事項を入力し **【追加】ボタン**をクリックしてください。

項目	入力値
①メニュー名	任意のメニュー名を入力します。 "【管】Microsoft 365連携設定" 等、判別しやすい名称を推奨。
②URL	お使いのサーバーがLinuxの場合 zo365set.cgi お使いのサーバーがWindowsの場合 zo365set.exe のみ入力してください。 ⚠ クラウド版の場合は、Linux (zo365set.cgi) となります。
③アクセス権設定	「Administrators」ロールを設定します。

- ④ 「オプションメニュー設定」で作成したオプションメニューをポータル画面のメニューや、画面左端のパレットメニュー上に配置してください。

関連FAQ

- [作成したオプションメニューを表示させる方法](#)

3. 初期設定を行う

Microsoft Azureへの設定追加や、Microsoft 365との連携のための設定値を保存します。

- ① 「2.設定用のオプションメニューの作成」で作成したオプションメニューをクリックすると、Microsoft 365連携の「初期設定」画面が表示されます。
先ず初めに、下記のラジオボタン部分を「使用しない」から「使用する」に変更してください。



- ② 次にWindows Azureロゴの右横にあるリンク「Azureにログインしてアプリを登録する」をクリックしてください。



管理者による事前準備

- 以下、ブラウザの別タブで開いたAzure側の画面説明となります。
(①、②のdesknet's NEO側「初期設定」画面は閉じないでください。)



- 既にMicrosoft 365を利用開始している状態を想定しています。
Microsoft 365の利用開始方法、設定につきましては、Microsoft社のドキュメントをご確認ください。

- ③ リンク「Azureにログインしてアプリを登録する」をクリックすると別タブで下記画面が表示されます。**Microsoft 365グローバル管理者アカウント**にて、Azureにサインインしてください。



ポイント

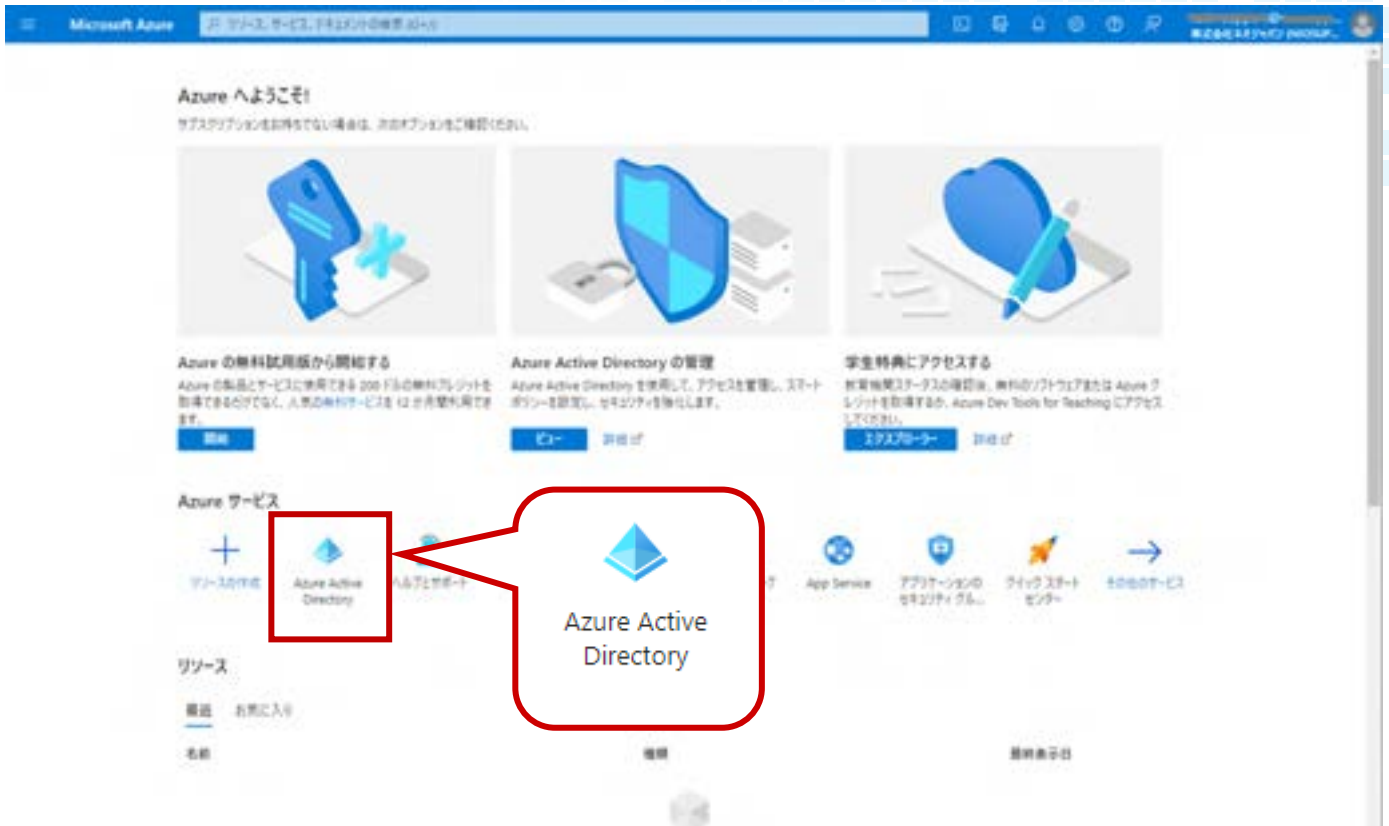
多くの場合、Microsoft 365を開始する際に取得した下記のようなアカウントが、Microsoft 365グローバル管理者となります。

<ユーザID>@<Microsoft 365のテナントID>.onmicrosoft.com



管理者による事前準備

- ④ サインインすると下記画面が表示されますので、「Azure Active Directory」をクリックしてください。



- ⑤ 画面左側サブメニューにある「アプリの登録」をクリックします。



-  ⑥ 画面上部の「+新規登録」をクリックします。



- ⑦ 必要事項を入力し、**【登録】ボタン**をクリックします。

Microsoft Azure | 検索: アプリケーションの登録

ホーム | 株式会社ネオジャパン | アプリの登録

アプリケーションの登録

名前

このアプリケーションのユーザー向け表示名 (後で変更できます)

Microsoft Entra ID ①

サポートされているアカウントの種類

このアプリケーションを使用したいこの API にアクセスし得るものはどれですか?

②

- ☒ この組織ディレクトリ内に含まれるアカウント (株式会社ネオジャパンのみ - シングルテナント)
- ☐ 任意の組織ディレクトリ内のアカウント (任意の Azure AD ディレクトリ - マルチテナント)
- ☐ 任意の組織ディレクトリ内のアカウント (任意の Azure AD ディレクトリ - フェデテナント) と個人用の Microsoft アカウント (Skype, Xbox など)
- ☐ 個人用 Microsoft アカウントのみ

選択に関する詳細。

リダイレクト URL (省略可能)

ユーザー認証が成功すると、この URL に認証応答を送ります。この時点で右側は省略可能ですが、後で変更できますが、ほとんどの認証シナリオで値が必要となります。

Web ③

https://www.microsoft.com/ja-jp/learn/modules/azure-active-directory-basics/10-creating-applications/

作業に使用しているアプリをこちらで登録します。サードパーティアプリと組織外の他のアプリは [エンタープライズ アプリケーション] から追加して統合します。

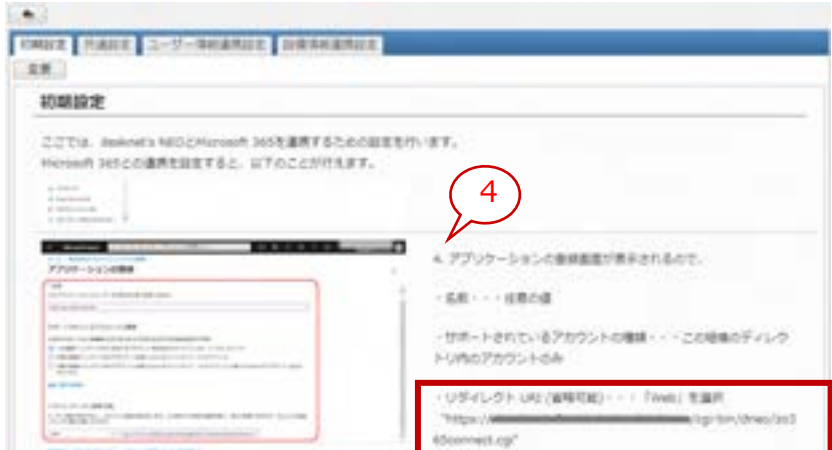
続行すると、Microsoft プラットフォーム ポリシーに同意したことになります。

登録

※ 入力値の解説は次ページ



管理者による事前準備

項目	入力値
①名前	任意の名前を入力します。 ※“Microsoft365 連携”等、分かりやすい名称を推奨します。
②サポートされているアカウントの種類	「この組織ディレクトリのみに含まれるアカウント（●●のみ - シングル テナント）」を選択します。 ※デフォルト設定
③リダイレクトURI (省略可能)	・プルダウンメニュー（プラットフォームの選択）を「Web」 ・リダイレクトURI ＜お使いのサーバーがLinuxの場合＞ https://（ご利用desknet's NEOドメイン）/cgi-bin/dneo/zo365connect.cgi ＜お使いのサーバーがWindowsの場合＞ https://（ご利用desknet's NEOドメイン）/scripts/dneo/zo365connect.exe ※ リダイレクトURIは"HTTPS"で始める必要があります。 ※ ご利用のdesknet's NEO側 Microsoft 365連携「初期設定」画面の4番目にも設定値が表示されますので、コピーしAzure側にペーストするか、上記を手入力ください。 

- ⑧ アプリの作成が正常に完了すると、作成したアプリの情報画面が表示されます。「アプリケーションID（クライアントID）」、「ディレクトリID（テナントID）」の値をコピーしてください。



表示名 : Microsoft365 連携

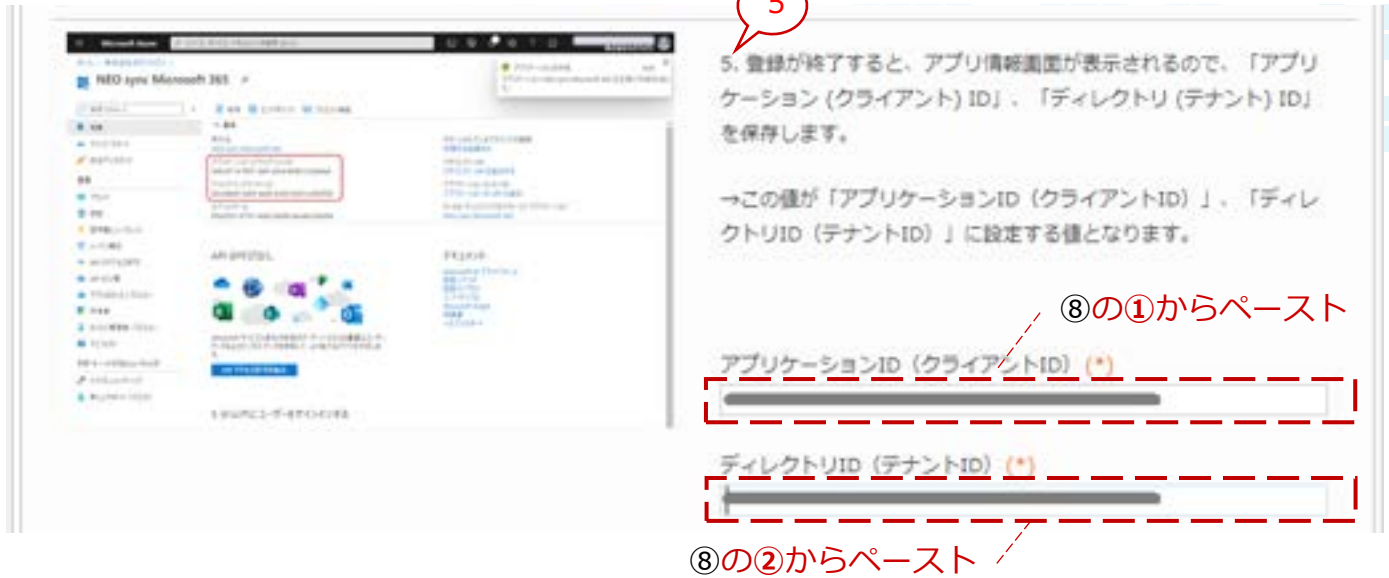
アプリケーション (クライアント) ID : xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx ①

オブジェクトID : xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx

ディレクトリ (テナント) ID : xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx ②

管理者による事前準備

- ⑨ desknet's NEO側 Microsoft 365連携「初期設定」画面の5番目に移動し、⑧でコピーした「アプリケーションID (クライアントID)」、「ディレクトリID (テナントID)」の値をペーストしてください。



5. 登録が終了すると、アプリ情報画面が表示されるので、「アプリケーション (クライアント) ID」、「ディレクトリ (テナント) ID」を保存します。

→この値が「アプリケーションID (クライアントID)」、「ディレクトリID (テナントID)」に設定する値となります。

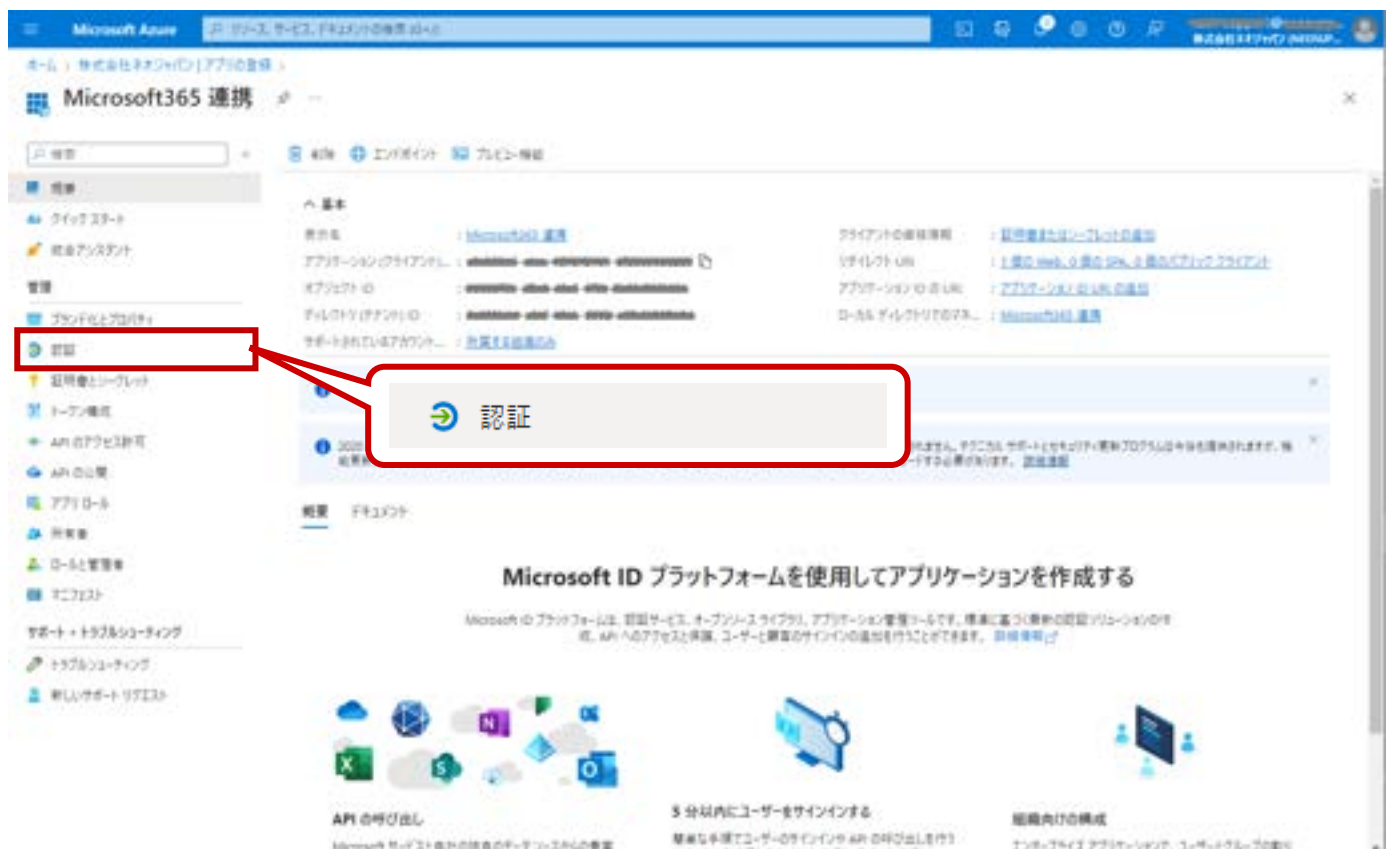
⑧の①からペースト

アプリケーションID (クライアントID) (*)

ディレクトリID (テナントID) (*)

⑧の②からペースト

- ⑩ Azureの画面に戻り、画面左部のメニューから「認証」をクリックします。



Microsoft Azure

Microsoft 365 連携

認証

Microsoft ID プラットフォームを使用してアプリケーションを作成する

Microsoft のプラットフォームは、認証サービス、オープンソースライブラリ、アプリケーション管理ツールです。標準に基づいた最新の認証ソリューションの作成、API へのアクセスと保護、ユーザーと顧客のサインインの強化を行うことができます。詳細情報

API の呼び出し
Microsoft サービスと自社の独自のサードパーティからのデータ

5 分以内にユーザーをサインインする
簡単な手順でユーザーのサインインと API の呼び出しを行う

組織向けの構成
エンタープライズアプリケーションで、ユーザーとグループの管理

管理者による事前準備

- ⑪ 表示された画面の「リダイレクトURI」の値をコピーします。



リダイレクト URI

ユーザーが正常に認証またはサインアウトされた後に認証応答（トークン）を返すときに宛先として表示されているものと一致する必要があります。これは応答 URL とも呼ばれます。リダイレク

`https://cloud-test-71-11-desknettrial.com/cgi-bin/dneo/zo365connect.cgi`

- ⑫ desknet's NEO側 Microsoft 365連携「初期設定」画面の6番目に移動し、⑪でコピーした「リダイレクトURI」の値をペーストしてください。

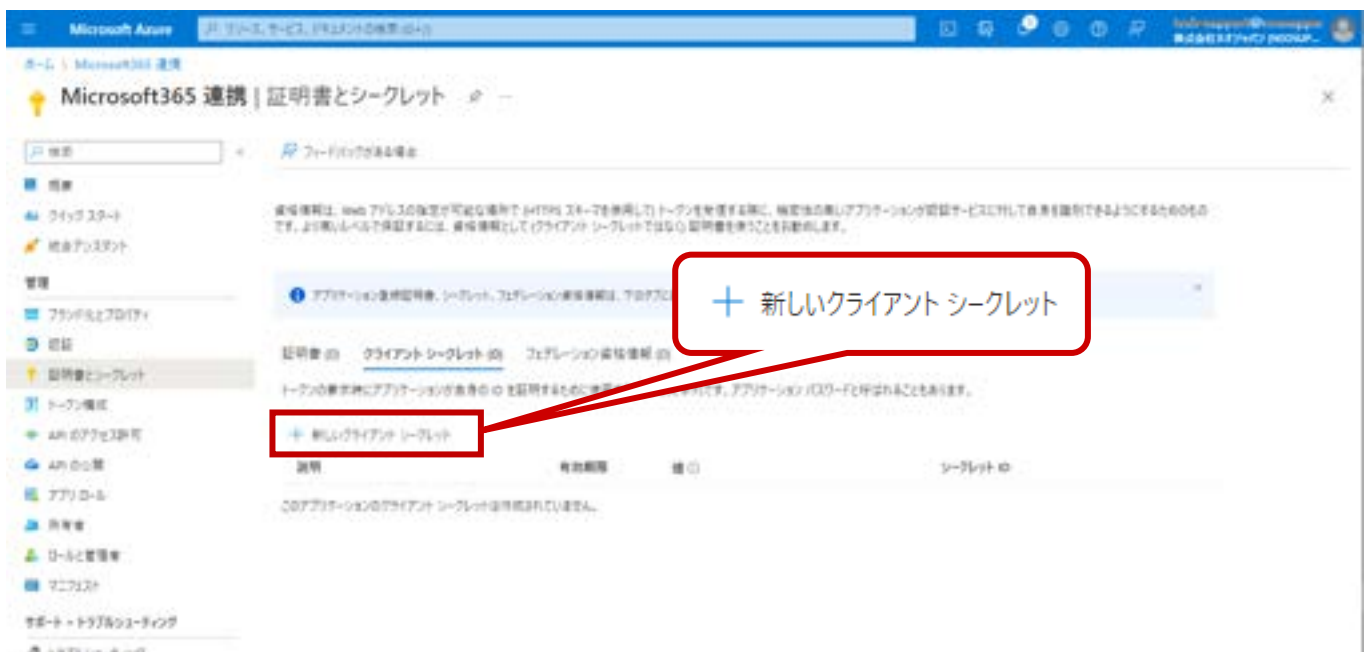


管理者による事前準備

- ⑬ Azureの画面に戻り、画面左部のメニューから「証明書とシークレット」をクリックします。



- ⑭ 「+新しいクライアント シークレット」をクリックします。



管理者による事前準備

-  ⑮ 必要事項を入力し **【追加】ボタン**をクリックします。

The screenshot shows the 'Add Client Secret' dialog in the Microsoft 365 portal. The dialog has two main input fields: '説明' (Description) and '有効期限' (Expiration Date). The '説明' field is highlighted with a red dashed box and a red circle with the number 1. The '有効期限' field is highlighted with a red dashed box and a red circle with the number 2. At the bottom of the dialog, there is a blue '追加' (Add) button, which is also highlighted with a red box. The background shows the Microsoft 365 portal interface with the 'Microsoft 365 連携 | 証明書とシークレット' (Microsoft 365 Integration | Certificates and Secrets) page.

項目	入力値
①説明	任意のメニュー名を入力します。 "Microsoft 365連携" 等、判別しやすい名称を推奨。
②有効期限	発行するクライアントシークレットの有効期限を指定します。  Microsoft 365利用有無に関わらず、期限が過ぎると有効期限切れとなり、クライアントシークレットの再発行が必要となります。 2023年時点のAzureの本設定では「有効期限なし」は設定できません。 設定後の期限をdesknet's NEOスケジュール等に記載し管理ください。

- ⑩ 作成したクライアント シークレットの「値」をコピーします。

⚠ 注意事項

- ※ 他の画面に遷移すると、クライアントシークレットの一部がマスク表示となります。
また、「値」ではなく「シークレットID」をコピー設定するケースが多く見られます。
必ずこちらの画面で「値」のコピーを行ってください。
- ※ コピーのし忘れや誤って他画面へ遷移した場合は、該当のクライアントシークレットを削除し、再度⑭の手順から実行してください。

The screenshot shows the Microsoft 365 portal interface. On the left is a navigation menu with options like 'ホーム' (Home), 'クイック スタート' (Quick Start), '料金プランとアカウント' (Pricing and Accounts), '管理' (Management), 'ブランド化とプロバイダー' (Branding and Providers), '認証' (Authentication), '証明書とシークレット' (Certificates and Secrets), 'トークン構成' (Token Configuration), 'API のアクセス許可' (API Permissions), 'API の公開' (API Exposure), 'アプリ ロール' (App Roles), '所有者' (Owners), 'ロールと管理権' (Roles and Management), and 'デフォルト' (Defaults). The '証明書とシークレット' section is selected.

The main content area is titled 'Microsoft365 連携 | 証明書とシークレット'. It contains two informational cards:

- カード 1: お知らせ (Notice) - Explains that web APIs can be secured with HTTPS and OAuth 2.0 tokens, and that the Microsoft 365 integration is used for authentication.
- カード 2: アプレット (Applet) - Explains that the Microsoft 365 integration is used for authentication and that the Microsoft 365 integration is used for authentication.

Below the cards, there is a section for '証明書とシークレット' (Certificates and Secrets) with a sub-section for '証明書' (Certificates). A table lists the certificates:

証明書	有効期限	値	シークレット ID
Microsoft365 連携	2021/12/14	Microsoft365 連携	Microsoft365 連携

The 'Microsoft365 連携' entry is highlighted with a red box.

值 ⓘ

必ず「値」をコピー

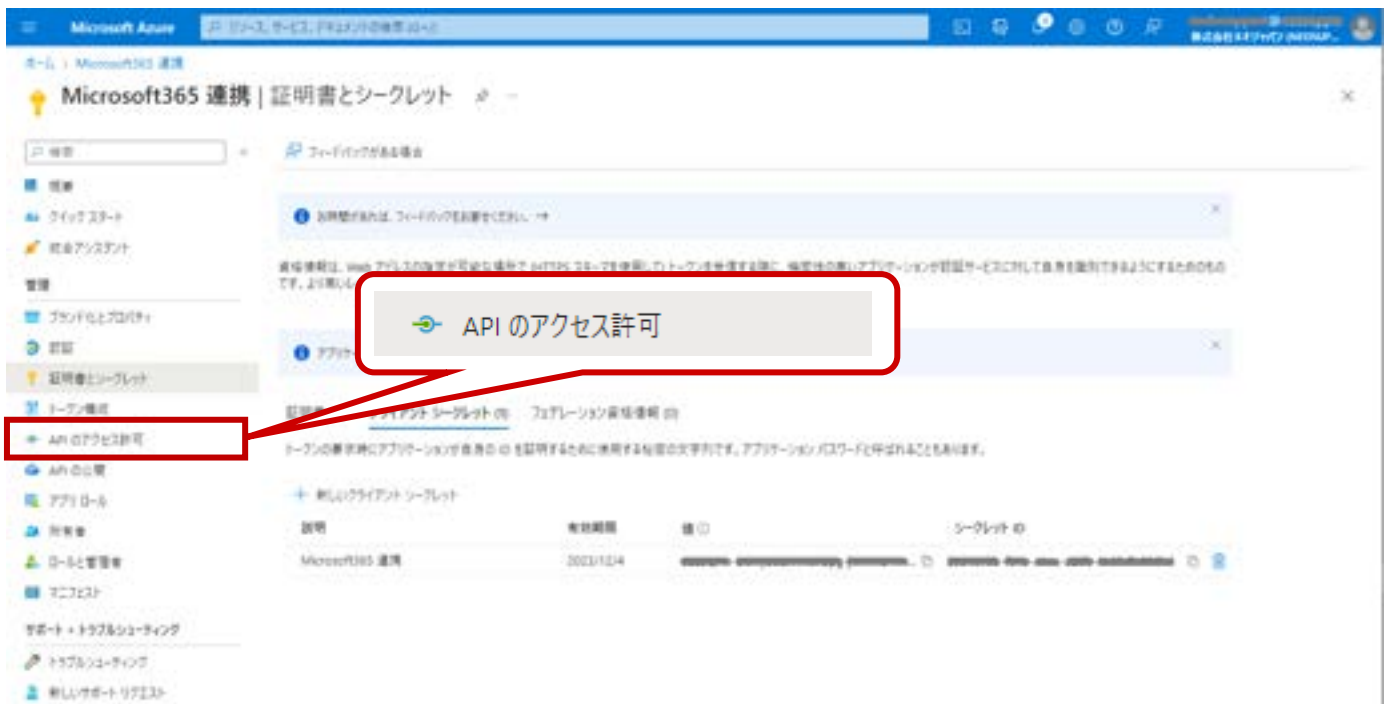
シークレット ID

- ⑰ desknet's NEO側 Microsoft 365連携「初期設定」画面の**8番目**に移動し、⑯でコピーした「**クライアント シークレット**」の値をペーストしてください。



- ⑮ 「初期設定」画面の上下にある**【変更】ボタン**をクリックし設定値を確定させてください。

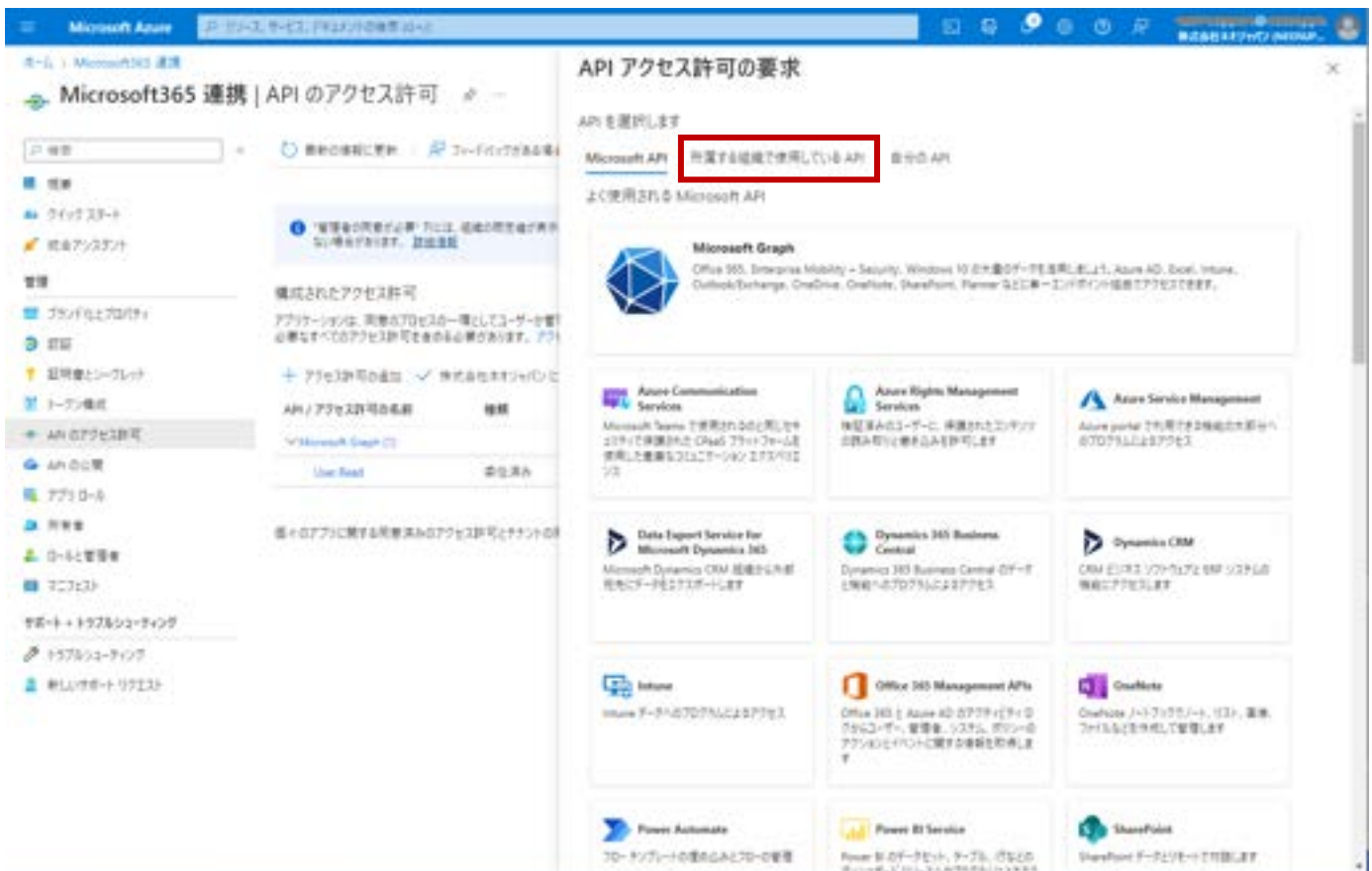
- ⑲ Azureの画面に戻り、画面左部のメニューから「API のアクセス許可」をクリックします。



- ⑳ 「+ アクセス許可の追加」をクリックします。



- ㉑ 「所属する組織で使用している API」タブをクリックします。



管理者による事前準備

- ② テキストボックスに「**Microsoft Graph**」と入力し、表示された“Microsoft Graph”を選択してください。

The screenshot shows the 'API Access Permissions' page in the Microsoft Azure portal. The left sidebar contains a list of navigation options, including 'API permissions'. The main area displays a table of APIs. A red dashed box highlights the search bar where 'Microsoft Graph' has been entered. A red arrow labeled '①' points to the search bar, and another red arrow labeled '②' points to the 'Microsoft Graph' entry in the list, which is highlighted with a red box.

- ③ 「**アプリケーションの許可**」を選択後、表示されたテキストボックスに「**Calendars.ReadWrite**」と入力してください。

The screenshot shows the 'API Access Permissions' page in the Microsoft Azure portal. The left sidebar contains a list of navigation options, including 'API permissions'. The main area displays a list of APIs. A red dashed box highlights the search bar where 'Calendars.ReadWrite' has been entered. A red arrow labeled '①' points to the search bar, and another red arrow labeled '②' points to the 'Calendars.ReadWrite' entry in the list, which is highlighted with a red box.

管理者による事前準備

- ②④ 表示された「Calendars」を選択・展開し、「Calendars.ReadWrite」にチェックを入れ、[アクセス許可の追加]ボタンを選択してください。

API アクセス許可の要求

表示が
Calendars.ReadWrite
Read and write calendars in all mailboxes
であることを確認してください。

②
アクセス許可の追加

- ②⑤ 「xxxxxxに管理者の同意を与えます」を選択します。

【付与前の状態】：「XXXXに付与されていません」

管理者による事前準備

- ②⑥ 確認メッセージが表示されるので **[はい]** ボタンを選択してください。



- ②⑦ 状態が緑色アイコン「xxxxに付与されました」になったことを確認ください。



【付与後の状態】：「XXXXに付与されました」

- ②⑧ 以上で初期設定は完了です。
誤操作防止のため、Azureを開いているタブを閉じることを推奨します。

4. スケジュールの同期設定を行う

Microsoft 365連携のスケジュール同期に関する設定を行います。

- ① Microsoft 365連携 設定画面の「**共通設定**」タブを選択してください。
画面を閉じてしまった場合は、再度「[2.設定用のオプションメニューの作成](#)」で作成したオプションメニューからアクセスください。



② 下記の必要事項を入力し、**【変更】ボタン**をクリックしてください。

項目	入力値
①同期	desknet's NEOのスケジュール（予定）と、Outlookの「予定表」を同期するかどうかの設定です。
①-1 個人毎の設定変更	ユーザー毎に変更可能とするかどうかを設定します。
②同機種別	サービス間の同期の方向を双方向か片方向を設定できます。
③同期対象外の予定種別	同期を行わない予定を選択します。
④過去の予定	過去の予定を同期するかを選択します。
⑤「添付ファイル」データ	スケジュールに添付されたファイルも同期するかどうかの設定です。  “同期する”にした場合、データがdesknet's NEOのサーバー内に保存（同期）されます。その為、 クラウド版desknet's NEOをご利用の場合は、ディスク使用容量を消費します。契約容量超過にご注意ください。
⑤-1 個人毎の設定変更	ユーザー毎に変更可能とするかどうかを設定します。
⑥自動同期	スケジュールデータを自動的に同期するかどうか、また自動的に同期する場合の 間隔を選択します。“10分間隔”、“15分間隔”、“30分間隔”、“60分間隔”から選択 します。  クラウド版をご利用の場合 同期処理の集中によるサーバー高負荷の発生抑止のため、下記設定値で 固定とさせて頂いております。 自動同期間隔：60分 (変更につきましては、お問合せフォームよりご相談ください)
⑥-1 個人毎の設定変更	ユーザー毎に変更可能とするかどうかを設定します。
⑦自動同期の範囲	スケジュールデータを自動的に同期する範囲を設定します。
⑧自動同期の日数	自動同期の基準範囲（⑦）に対して、設定した日数分同期範囲を広げる設定です。  クラウド版をご利用の場合 同期処理の集中によるサーバー高負荷の発生抑止のため、下記設定値で 固定とさせて頂いております。 同期する過去の日数：7日 同期する未来の日数：7日 (変更につきましては、お問合せフォームよりご相談ください)
⑨手動同期	手動同期を許可するかどうかを設定します。 ※ "許可しない"とした場合、スケジュール画面の[Outlook「予定表」と同期] ボタンが非表示になります。
⑩手動同期の日数	手動同期の基準範囲（⑨）に対して、設定した日数分同期範囲を広げる設定です。  クラウド版をご利用の場合 同期処理の集中によるサーバー高負荷の発生抑止のため、下記設定値で 固定とさせて頂いております。 同期する過去の日数：7日 同期する未来の日数：7日 (変更につきましては、お問合せフォームよりご相談ください)

5. ユーザー毎のスケジュールの同期設定を行う

ユーザー毎のMicrosoft 365連携設定を**管理者が実施**する場合の操作です。

※本画面の設定を各ユーザーに実施させる場合には、「[6.ユーザー向け設定用のオプションメニューの作成](#)」の手順に従いオプションメニューを作成・配置してください。

- ① Microsoft 365連携 設定画面の「**ユーザー情報連携設定**」タブを選択してください。
画面を閉じてしまった場合は、再度「[2.設定用のオプションメニューの作成](#)」で作成したオプションメニューからアクセスください。

メニュー

【管】 Microsoft 3... スケジュール ToDo ウェブメール

初期設定 共通設定 **ユーザー情報連携設定** 設備情報連携設定

変更

初期設定

ここでは、desknet's NEOとMicrosoft 365を連携するための設定を行います。
Microsoft 365との連携を設定すると、以下のことが行えます。

全41件

初期設定 共通設定 **ユーザー情報連携設定** 設備情報連携設定

組織

ルート

すべてのユーザー

情報システム室

全社

情報システム室

営業本部

製品開発本部

東京本社

大阪支社

同期 氏名 UPN メールアドレス 状態

伊藤 守

加藤 桃子

清水 伊織

John Smith

森田

石橋 綾枝

所属ユーザー数: 41人

管理者による事前準備

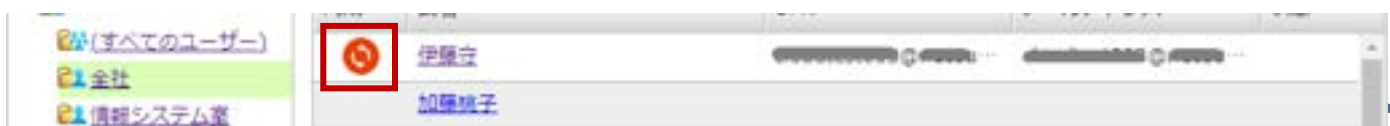
- ② 連携を設定する**ユーザー名**をクリックします。



- ③ 設定内容を入力し、**【変更】** ボタンをクリックします。

項目		入力値
①スケジュールの同期設定		「 4.スケジュールの同期設定を行う 」の②と同様の設定です。同期の有無等を、ユーザー毎に異なる設定とすることが可能です。
	①-1 既定のリマインダー	Outlook「予定表」のリマインダーを設定するかどうか、また設定する場合のリマインダーの値を選択します。
②UPN		Microsoft 365でユーザーを識別するために使用する識別子です。 (通常はMicrosoft365のメールアドレスと同じ、 <ユーザID>@<Microsoft 365のテナントID>.onmicrosoft.com) Microsoft 365アカウントの詳細情報をご確認ください。
③メールアドレス		Microsoft 365アカウントの持つメールアドレスを設定してください。

- ④ 設定が完了すると、ユーザー一覧の「同期」欄に下記アイコンが表示されます。



6. ユーザー向け設定用のオプションメニューの作成

「[5.ユーザー毎のスケジュールの同期設定を行う](#)」の設定を各ユーザーに実施させる、また設定内容を各ユーザーに変更を許す場合、下記手順でユーザーが情報連携設定を行うオプションメニューを作成する必要があります。

- ① ご利用中のdesknet's NEOにシステム管理者ユーザーでログインしてください。
- ② 管理者設定 > メニュー設定 > オプションメニュー設定へ移動し、**【オプションメニューの追加】ボタン**を押してください。



- ③ 下記の必要事項を入力し **【追加】ボタン**をクリックしてください。

項目	入力値
①メニュー名	任意のメニュー名を入力します。 "【個】Microsoft 365連携設定" 等、判別しやすい名称を推奨。
②URL	お使いのサーバーがLinuxの場合 zo365set.cgi?cmd=o365psetuserentry お使いのサーバーがWindowsの場合 zo365set.exe?cmd=o365psetuserentry のみ入力してください。 ⚠ クラウド版の場合は、Linux (zo365set.cgi) となります。
③アクセス権設定	各ユーザーが設定を行えるよう、「 Everyone 」ロールを設定します。

- ④ 「オプションメニュー設定」で作成したオプションメニューをポータル画面のメニューや、画面左端のパレットメニュー上に配置し、ユーザーへ設定依頼をしてください。

関連FAQ

- [作成したオプションメニューを表示させる方法](#)

7. 設備の連携設定を行う

desknet's NEOに登録している設備とMicrosoft365で設定している設備も同期対象としたい場合、こちらの設定が必要になります。

- ① Microsoft 365連携 設定画面の「**設備情報連携設定**」タブを選択してください。
画面を閉じてしまった場合は、再度「[2.設定用のオプションメニューの作成](#)」で作成したオプションメニューからアクセスください。



管理者による事前準備

- ② desknet's NEOの「設備予約」に登録されている設備名が表示されます。
連携を設定する**設備名**をクリックします。

全2件

初期設定 共通設定 ユーザー情報連携設定 設備情報連携設定

相機選択 (すべて) (設備グループ選択)

設備名	メールアドレス
大会議室	
マシン室内 実験机	

全2件

- ③ Microsoft 365の会議室が持つメールアドレスを入力し、**【変更】 ボタン**をクリックします。

初期設定 共通設定 ユーザー情報連携設定 設備情報連携設定

変更 キャンセル

設備毎の連携設定

設備名 : 大会議室

メールアドレス : room@onmicrosoft.com

変更 キャンセル

- ④ 設定が完了すると、設備一覧の「メールアドレス」欄にMicrosoft 365側の会議室のメールアドレスが表示されます。

全2件

初期設定 共通設定 ユーザー情報連携設定 設備情報連携設定

相機選択 (すべて) (設備グループ選択)

設備名	メールアドレス
大会議室	room@onmicrosoft.com
マシン室内 実験机	

全2件



28

- 管理者設定 > 運用設定 > メニュー設定 > オプションメニュー設定

設定機能：管理者設定

追加

キャンセル

オプションメニューの追加

メニュー名(*)：

Outlook

①

URL(*)：

https://outlook.office.com

②

アクセス権設定：

ユーザー/組織/ロール選択

Everyone

表示/非表示：

表示

アイコン：

スライドメニュー：▼画像を変更する

パレットメニュー：▼画像を変更する

ポータルアイコン：▼画像を変更する

メニュー

アイコンを選ぶ

画像をアップロードする

▼画像を変更する → 画像をアップロードから、①で右クリック保存したアイコンを設定

29

改版履歴

- ・ 2023 年 7 月 31 日 第1版

株式会社ネオジャパン

〒220-8110 神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-2-1 横浜ランドマークタワー10 階

 クラウド版カスタマーセンター

0120-365-800

営業時間：平日9:00～17:30（土日祝日、弊社指定休日を除く）

 メールでのお問い合わせ

cloudsupport@desknets.com

